



ひろみっこ

令和3年2月1日
富士市立広見小学校
学校だより 2月号

小中一貫教育目標 「一生懸命 がんばる」
重点目標 「ともに学ぼう 挑戦しよう」

2月・3月の生活目標 「ありがとうの気持ちをあらわそう。」

校長 石原 克己

1月が「行き」、2月に入りました。2月は「如月（きさらぎ）」と呼ばれます。その由来については諸説ありますが、この時期はまだ寒さが残っていて、衣を更に重ね着することから「衣更着（きぬさらぎ）」という説があります。他には、旧暦の2月は、新暦の2月下旬から4月上旬ごろにあたるので、草木や花の芽が出始め春の訪れを感じることでできる季節ということから、「草木張月（くさきはりつき）」と呼ばれていたようです。春到来間近を感じさせる素敵な呼び名だと感じます。

春到来と言えば…、地球の公転周期が、1年間の365日から微妙にずれているために日付の変動が生じ、今年の立春が2月3日（水）となり、節分は、その前日の2月2日（火）となるそうです。節分が2月3日でなくなるのは、37年ぶり、そして、2月2日になるのは、124年ぶりということですね。稀な出来事を感じながら、豆まきをするのも今年の一つの思い出として残るのではないのでしょうか。学校では、心とむ春に向けて、引き続き感染症予防対策に取り組んでまいりたいと思います。

◇未来につなげ！広見小50年の思い～創立50周年記念式典&広見っ子フェスティバル◇

1月29日（金）に、規模を縮小し、時間を大幅に短縮して広見小学校創立50周年記念式典を行いました。リニューアルした体育館で、換気に気を配り、マスクをして間隔を最大限に取りながらでしたが、久しぶりに全校児童が集まり、広見小学校50歳を地域の代表の方とともに祝うことができたことはうれしい限りでした。また、40周年から10年間かけて積み立てていただいた資金で新調した校旗がPTA会長佐藤様から贈呈されました。真新しく美しい校旗とともに広見小学校の51歩目を希望をもって力強く歩み出していけると感じました。そして、子どもたちが制作した50周年記念パネルからも元気や勇気がもらえます。何かの機会にご覧いただけたらうれしく思います。



記念式典後は、「広見っ子フェスティバル」を開催しました。子どもたちは、例年との違いに見事に適応し、密にならないようお客さんが楽しむためにはどうしたらよいか、消毒はどのタイミングでしたらよいかと感染予防を前面に出して準備を進めました。当日も、計画通りに運営したり、お客さんとして楽しんだりしている姿が多く見られ、久しぶりに心から満足した子どもたちの笑顔を見た心もちでした。コロナ禍でも、工夫して活動すれば楽しみを得られることを学んだ子どもたちでした。今後につなげてほしく思います。



◇全国学校給食週間◇

1月24日（日）から1月30日（土）までは、「全国学校給食週間」でした。学校給食の意義や役割について理解を深め、関心を高めることが目的です。本校では、2週間にわたり、昼の放送を利用して栄養教諭が7名の給食調理員にインタビューして好きな給食や調理で気を付けていること、子どもたちへのメッセージを紹介しました。また、給食委員会も「給食について、知ろう！考えよう！」と題して、クイズを出して学校給食の歴史を伝えるなど、給食への感謝の気持ちをあらわしていました。そして、29日（金）は、5年生が考案した「ひろみカレー」が献立として選ばれ、みんなでそのおいしさを味わいました。充実した食育の一週間になりました。